



Title	特集1：さんかふえを振り返って
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2012, 18, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/23018">https://hdl.handle.net/11094/23018</a>
rights	
Note	

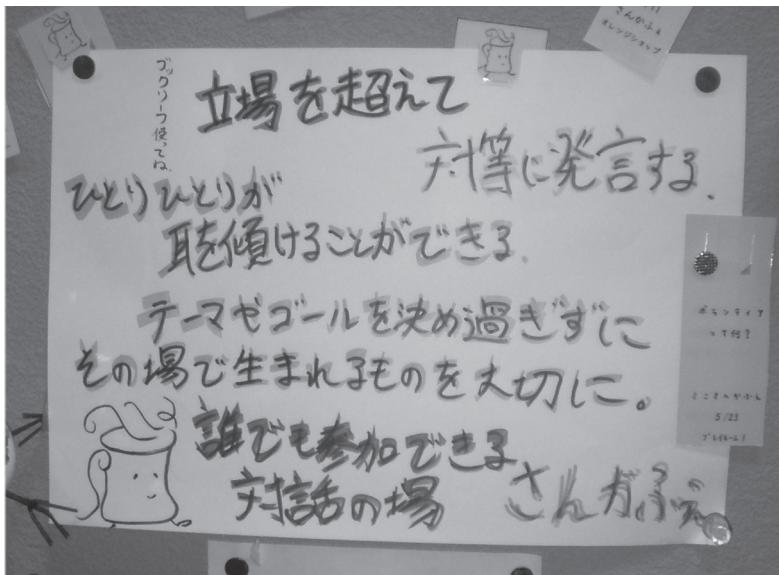
*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 特集 1

# さんかふえを振り返って



さんかふえとは、とよなか国際交流協会のスタッフと臨床哲学のメンバーが協力して設けている対話の場である。参加者にはボランティアなど協会に関わる人が多いが、制限はなく、誰でも参加できる。二時間の「さんかふえ」が偶数月に、一時間の「ミニさんかふえ」が奇数月に開かれている。経緯については『臨床哲学のメチエ』17号、p.4を参照。

3月16日、一年間続けてきた「さんかふえ」の振り返りを兼ねて、川崎と金の両名が聞き取りを行なった。参加していただいたのは、協会職員から阿部和基さん、今井貴代子さん、平松マリアさん。さんかふえに継続的に参加してくださっている、協会ボランティアのネルソン百合子さん。はじめ直接につながりはなかったものの、さんかふえを通じてセンターに関わるようになられた岩崎宏さん。そこに我々を加えた8名で、さんかふえのこれまでとこれからを自由に話し合った。